



中村俊定文庫
文庫 18
38



よもぎく 云々
ゆふあふおしんを今に代
しよふおのてまおつちあ
とれんあしん民のうのい
こいふおのてまおつちあ
およあつと徳たたこと
飛鶴もふらんあてわり
しらひとてらよあん
此れをいふと
右人のせいよあつちあ
そめぬれち武千句大流
あしぬがよ入らふの

海の敷句付の
えつとをよしつとまわ
乃故見よ入用
そ海よい一集
樂と号ゆつ作
月らびくこと
あしんあまの
晴月よ
あしんあまの
あしんあまの
あしんあまの
あしんあまの

茶花

躑躅

萱

蕨

菖蒲

款冬

水日

鍾

喚子

去教公

善書

雜書

物類集卷第一

春上



元日



まらやふりんてんてんてんてん

わらわらひらりあつらふら

礼儀とそらりまらあそらあ

右年よあつらふら

あそらあそらあそらあそら

申のうらあそら

いそらあそらあそらあそら

年よあそらあそらあそら

あそらあそらあそらあそら

鳳凰も出よのぞき見よ此年何
み親よとてしらぬのうもれ境
花梅や年花越して花はらう四
大づくの葉乃わらも梅干は
うづらえらるれ年よ

級むらああああひや
年まは日あ梅りるおれな喜
うや梅は推来くうも梅の
年の華ここもや動れあうり
うらうや梅報あじとら何
申乃うーぬ

きふ年とらうてやうられ物取書

年申こしらるる梅娘うー何日
うらうとらう

わく玉ふらうてちやうり此年何
年とらうの目さうらう

そてらうらう日ハじまらわらぬ
元日ハま蔵徳何方さうらう

年誣もうたあそてまれ目か体
餅よはらうこの物乃いしわが何

元日あぬらうらう

らうまの年まらうんわらぬ
ま承といやうらうのうらう
ゆがらうやあまはあらうらう

有業 付七種 同堂立

七種を店主のちれりえ

法よりつるや棟も此の地

戒人ふと七つあつく七種乃

教りせしむりしれし

あつらんふはあふれがなま

あつるれがうよあめりしうま

けいそは後らひつるふしを

うぬしそはしむくああすの

御成るとよ下よらうらる親

あつたよううらるやあ業松

ららら八十一約うらりれ

あつと入行店との音うか

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

ねえ師の音うて

あつらん用の梅の白

白梅

ま乃日かあひのし梅のび
松梅の腰のあひのび
は梅とくもあひの梅のび
ひうきくはあひの梅のび
ねるして空梅のあひのび
梅のびのあひの梅のび
うごううあひの梅のび
門松のあひの梅のび
あひの梅のあひの梅のび

男松のあひの梅のび
あひの梅のあひの梅のび

梅

梅のあひの梅のび
梅のあひの梅のび
あひの梅のあひの梅のび
梅のあひの梅のび
梅のあひの梅のび
梅のあひの梅のび
梅のあひの梅のび
梅のあひの梅のび
梅のあひの梅のび
梅のあひの梅のび

雲山く雲をわりの形を正
百を乃をよて

雪も梅う枝うこお庭う家
生連枝う初雪や法の小
梅坪よ雪ういさわこも
梅やせん雪乃うむさ乃
志やうこんよありお雪
雪のう雪もあふまうん
雪

雪の山ようもあふま
くくくくくくくくく
世八彦乃天井をうる
雪

引雪うも山乃雪中
くくくくくくくく
葉目のうもひようあう
天乃雪をわてい乃
ちうくくくくくくく
山くくくくくくく
酒のり乃雪よて

ひう雪をさそ一雪の
あれ雪のうもく乃
三梅めく

くくくくくくくく
雪

兵庫ふねわて

とく見ゆ漢楊の雪はれりやあまを

残雪

こころをまごて流るる雪は
や来乃あまやへのゆいりか
山のふもとやとまきて雪は
若くは雪や日影のあまら
あけつてはれり雪の
雪綿とくく日のはりか

春氷

あまの雪とりてあまの雪

かぎりや真氷よ

氷とくろあまの雪とくろ
あまの雪とくろあまの雪
とくろあまの雪とくろあまの雪
あまの雪とくろあまの雪
あまの雪とくろあまの雪
あまの雪とくろあまの雪

春雨

あまの雪とくろあまの雪
あまの雪とくろあまの雪
あまの雪とくろあまの雪

木目

まゝあやうまじまのめれを業
吹風やうまじまのめれの業
あつらふまじまのめれを業

世よき世よき

まよまじかんてまよまのめれ

柳

まよまわらてまぎさ柳を
まよまめれまのめれを業
辰辰まをまよま柳を
新力あつらふまよま柳

まよま柳のめれを業

まよま柳のめれを業

まよま柳のめれを業

まよま柳のめれを業

まよま柳のめれを業

まよま柳のめれを業

まよま柳のめれを業

まよま柳のめれを業

まよま柳のめれを業

まよま柳のめれを業

まよま柳のめれを業

柳の智恵へ下向し時

お集

一の第よのせんらまはしくと
お集えらぬ町らりの

お集

お集中てかそそわゆるお集の
お集よそのお集をうけお集
お集よそわゆるお集の

お集

お集よそわゆるお集の
お集よそわゆるお集の

お集

お集

お集よそわゆるお集の

お集よそわゆるお集の

お集よそわゆるお集の

お集よそわゆるお集の

お集よそわゆるお集の

お集よそわゆるお集の

お集

お集よそわゆるお集の

小松乃ちあひつららりあき可也
ひきつらららりあき可也
ひきつらららりあき可也

あきつらららりあき可也
あきつらららりあき可也
あきつらららりあき可也

桃花

百々あひつららりあき可也
あきつらららりあき可也
あきつらららりあき可也

二月三日

桃乃酒あひつららりあき可也

あきつらららりあき可也
あきつらららりあき可也
あきつらららりあき可也

花

あきつらららりあき可也

花

あきつらららりあき可也

あきつらららりあき可也
あきつらららりあき可也
あきつらららりあき可也

哀登しきふよて

あふりしむてらん死のうめわ
雨よらぬ死を祝し不孝な

澳たぬく

ゆ平々松風ゆよと海乃む

舞を舞ちぬく

と死の息よいらん乃津吉

遊るよ

ゆ人々津吉のま乃死を

落ゆハ眩病風う死ゆく

よとまふをころ人無ゆ

孫あうむく妻よとよ死のわめ

文よ海てうらや花のうひか句

嘆あぬもあぬらまされらま

光忠乃死と

死をせんいむわあまのひら雲

おまりの登ぬく

おひのけがまひのき死のまの

まんてや風よたららむ死の

わらふとと果やめや乃とま

もとあや虎のにおもむれ風

むのうかもちと悪女乃海

死をむく燈後たらやぬのよ

牛の燈もあひつらやむ車

あら風はらつふあゆこくくうまき
むらむらつゆのえこのま極の
こころはなやめらるやまのぬ
よろびのまのぞひく山極の
ちらびのくまよそて極むの
酒らえせんドきそよ極極の
こころまよ山極のさくかりの
まきくまむかきこくうま極の
大極風かよそまもまの
空足の山はうまや大さくうの
いれまもわられりいせ極の
ちの時ぞ人られま八ま極の

むらむらつゆまきくうま極の
まきくまむかきこくうま極の
まきくまむかきこくうま極の
まきくまむかきこくうま極の

極綱 付極具

花よりまきくまきくうま極の
らぬまきのまやまゆれまら極の
まきくまむかきこくうま極の
極綱まむらひまびまゆまゆ
ゆまよいかそけん極の極
魚まよまよまゆまゆ極の極
らぬまやまゆまゆのまら極の

山がやまの峰をたふさくくさの
船は海をよみよきさくく船を

海舟

梅瀬浦の長谷の舟をたふさく

紫花

梅よよしはかきれあさり

花よよは病をすのふはすき

ちよよはうきとくはれはすき

ひよよはうきとくはれはすき

あやまて花のまうり

咲花であるや初自すれ花を

辛夷

あまぬはれはあさりの花をか盛

咲花をたふさくくさくさく

海棠

人のめはさる海棠の神ありは地

海棠は花のびくく風の音

あやまて花のまうり

海棠を海をく居眠てすき

海棠や咲てらるるは花

こまめ

かきく 儂めん 石まめめら

風よ枝まゆらひ 花まゆら 小まめれは

葉も 日摘

ちまがわまのあまの海はかき 葉も

まゆらひらまゆらまゆらまゆら

まゆらまゆらまゆらまゆら

まゆらまゆらまゆらまゆら

郷

ひまれのまゆらまゆら

花まゆらまゆらまゆら

まゆらまゆらまゆらまゆら

まゆらまゆらまゆらまゆら

まゆらまゆらまゆらまゆら

まゆらまゆらまゆらまゆら

まゆら

まゆらまゆらまゆらまゆら

葉

まゆらまゆらまゆらまゆら

まゆらまゆらまゆらまゆら

まゆらまゆらまゆらまゆら

まゆらまゆらまゆらまゆら

葉

おこわひよましましらせよ
とらふ巖もやせりてらふ一
地てわびくめの輪もひ休甫
ま風は腕をせりてひ休
ひ之野うらひとままは後英
おのろてままてらふ巖
さしひてらふすめむ若の安
わてふるまもとのまま
とまの形はひひうれとひ
おこわひよましましらせよ

教

おこわひよましましらせよ
とらふ巖もやせりてらふ一
地てわびくめの輪もひ休甫
ま風は腕をせりてひ休
ひ之野うらひとままは後英
おのろてままてらふ巖
さしひてらふすめむ若の安
わてふるまもとのまま
とまの形はひひうれとひ
おこわひよましましらせよ

ねんを梅か花の花乃海春
花枝のうらやうんねありの
船はとまひりるあそりあ
あふよふりハねのあけ
あまのねむされさりあま
ねねのさるや花の花はう
あまふりさるやあそりあ
なまの倒るあそりあ
けりりあ
ねんを梅か花の花乃海春

歌
歌

ねんを梅か花の花乃海春

ねんを梅か花の花乃海春

あまの倒るあそりあ

山吹はさるあそりあ
歌のあそりあ

歌
歌

ねんを梅か花の花乃海春

あまの倒るあそりあ

ねんを梅か花の花乃海春

ねんを梅か花の花乃海春

ねんを梅か花の花乃海春

永日く減らわさるるに
流れかゝる免の身は
日か

子めく

永日く減らわさるるに
迎わりのび河うら
曲あをがふあひ日の酒

種

よんうのてしわ種
高代をせむ種
わがし御通るる

学と種乃あや
なりあのはわさるる
海くわく田勢わら
軍よや男うそ
うりまを湯うぬ
流のませう
河中て種う種や

菓子

梨入る流のま

去時

まやふらんふらふあく群ら
そののふあふまがをりてん法之
まやわん下一のゆもを成法

春

言てゆまや露の園をり休言

雑言

たきもいんまはまの毛也
物もれ派流てままも
かまもまもまも山椒の
名ぬよまもまのまもれ

半乃みまも角ままも

深生三日作あめく

増はまあまのくひらま

如月初年よ

あまもまも初しまれいまらひ
ゆるとまもまも月もか
ま風もまもまもまも
まもまのまもまのかりひ

二月十あふ

めまもまもまもまもか感

二月廿六日

天あま月をまもまのまもれ

三十一
之浦の八重の梅もあつた
物もあれど重なる梅もあつた
梅もあつた

梅もあつた
梅もあつた
梅もあつた

梅もあつた
梅もあつた
梅もあつた

梅もあつた
梅もあつた
梅もあつた

狗猫集題目録

夏秋

文衣 新樹

杜若 一八

芍薬 芍薬

菱 柳

紫陽花 柳

時子 螢

麻子 萩

石竹 百合草

鳳仙花 狭繖花

六月 梅雨

六月 梅雨

余花 三

牡丹

柳

梅

萩

梅

萩

梅

萩

梅

萩

水鏡	白魚	五月	蓮	出羽	交野	桃突	多行
雜交	麻	短水	氷室	藤	後鳥	菊	毒
納涼	紙	紙	紙	紙	紙	紙	楊梅

物搦集卷之三

夏

夏家

ゆきてさよよとら中ぬ秋久と
 毛程よ鶴もくやなう魚焼
 いのふふふふのあふふ

新樹

あふふふふふふふふふふふ
 あふふふふふふふふふふふ
 あふふふふふふふふふふふ

山崎の申のりつ刀うまこしら体者
しんあまもやうつううまをい
なまうやまよゆぢ教の申ふ
夜ふそごうのさく味や者れ死
友山の道やういさうけうく教

余花

嵐ら卯月の花のうたれ乳

杜若

祝おせ思ふ貴座をうたつて
歌とあよまは印ほや杜若

海濱もいあひひさうま
あおもかてもあまむい
あう人やほほよ笑う海よ
みう人やほほ用さうたつて

一八

まうりてえさや一八むのよ
ふれわきで先一山の

牡丹

名みおらうもほくれ
あまをせうやうんら

月乃ハ美仲もそんよ母うきよき
とてしつらりそんれつと母れは
はさう入今事わくや母のこ正
牛舟んよ人正取さこハ
播つるも牛舟乃陰を乃理かき
塙めく
まのせハ牛舟乃のさりか何

歌集

あまのさりそんよ海りて
あまのさんをくゆくれわつれ
んやんあまのれむの友は

乃乃播一尺ゆくのまよりかき

あまの

あまのさりそんよ海りて
あまのさんをくゆくれわつれ
んやんあまのれむの友は

あまの

乃乃播一尺ゆくのまよりかき
あまのさりそんよ海りて
あまのさんをくゆくれわつれ
んやんあまのれむの友は

あまの

乃乃播一尺ゆくのまよりかき
あまのさりそんよ海りて
あまのさんをくゆくれわつれ
んやんあまのれむの友は

葵

花うらと実うらとせううらとら花う
おのやうにうらと葵のうらと一葉
花のあんはうとふう葵うかぬ安

柳

柳紫うやうのひやとやう月小成

蓮花

花うらと実うらとせううらとら花う
教うらと実うらとせううらとら花う

紫陽草

おめとらとみえわらとらとら花の
あ

楼

うらと実うらとせううらとら花う

本法よ人のまこととて

月う人も楊氏乃らとくう花う

門あうと実うらとせううらとら花う

高敷うらと実うらとせううらとら花う

まうらぬらとらとらとら花う

花うらと実うらとせううらとら花う

梅子

門をせむらも榊み乃む盛原
夜乃目よじしきて嘆や榊も何
死の事や非んよか人れ本考の反

時多

名案せむ氏や楊がこくた

建仁のあへ

高のりよあやわをあらぶ子親
折乃ぶらあやまといわもつ河多
時よあや身の業も何れか
かきうをいふよとらあ時多
あんでいふは時多あぬみ親

はるたはれ業のけしん

東のよまうりて

秘多とらあやまを郭る産

くはららまあへ

よく中わらるる名物の産

成ちあて

かきうぞんよまをかきう

時多のまうらわくよ

美多とらあやまのね時多の
名かからまをせま何れん
時多のいしあられらう無産
名まをらまをせま何れん

だくみよざらふり日き子親を
 せ連とせそらみりふ何多の
 天のそやよはれしくねん利流
 結してねんせんれ流はえの
 年のびくわのやもや子親愛
 田あふふ多のりわむよと
 家約の務務や木がねんは
 多のやあとの曲業がとるの
 子の継ふらあらうはとあとの
 多のお乃の事よあかすはの

業

夜虫よ尻乃火やと飛業
 藤乃その風や業の火吹舟
 あを尻れかむあ業やとら
 うら川て火むとらと業の
 とらふ業乃流の業ハ志とけ
 業のほふおの火やとぶ業
 高野山若乃業をひの赤と
 業とやく業の尻やとわも
 飛業折より野のそとれ火水業
 業乃屋の火のそと連ハ業の体
 ありとて火乃面もはかすは業

螢火をひらけ海に池乃有
螢火は海乃中の炎なり
物居る螢火乃志あり
飛螢二せよあまの河も
あまの火のおぼしめ
乃く神と水光の
螢火をせよ
無火も螢をひらけ海に
海影もあまの火に
あまの火をせよ
あまの火をせよ
あまの火をせよ

螢火の池

螢火の池に
あまの火をせよ
あまの火をせよ
あまの火をせよ
あまの火をせよ
あまの火をせよ
あまの火をせよ
あまの火をせよ

螢火の池

螢火の池に
あまの火をせよ
あまの火をせよ
あまの火をせよ
あまの火をせよ
あまの火をせよ
あまの火をせよ
あまの火をせよ

あつちうらぬきあつちうらぬき
夏のよみぬきあつちうらぬき
あつちうらぬきあつちうらぬき

麩子

あつちうらぬきあつちうらぬき
あつちうらぬきあつちうらぬき
あつちうらぬきあつちうらぬき

鮎

あつちうらぬきあつちうらぬき
あつちうらぬきあつちうらぬき

梅子

梅子が虎しわらきや石竹
梅子の咲きばかじや
あつちうらぬきあつちうらぬき
梅子の咲きばかじや

石竹

あつちうらぬきあつちうらぬき
あつちうらぬきあつちうらぬき
あつちうらぬきあつちうらぬき

百合草

茶をよゆりよとろろ花籠はなご

まかしの花をぬきぬきしゆり花籠

鬼百合おにゆりよわがご腹はらの花籠はなごはまた

見しやと推おしえみ神かみをゆり花籠

百合ゆりの火ひとともとかのこ花籠はなごはまた

ゆり花籠はなご鬼百合おにゆりあまの徳とく月つき

さぬあやんはくすの徳とく多た百合ゆり花籠

孝こ一いち夜や

ゆりあらしをせよとこなれむとて花籠

あつめおせよとこなれむとて花籠

風仙かぜせん花はな

わのこらつめあつめとて花籠

鉄線てつせん花はな

磁石じしつ山やまよ極ごくてもろろ花籠

鉄線てつせん花籠はなごあまのこらひ花籠

苗葉なほは

なほはとハ草くさ地ぢ乃のもろろ花籠

草くさ地ぢとて人をわめれ花籠

草くさ地ぢとて苗葉なほはハ花籠

あまのこら花籠

あまのこら花籠

毛後(わ)ち(ら)び

宗(しゆ)入(い)る(ら)ら(ど)ろ(も)を(ま)か(る)ま(ら)ぬ(ま)ら
花(はな)と(ま)ゝの(こ)れ(を)ま(ら)る(ら)ら(ど)ろ(も)を(ま)か(る)ま(ら)ぬ(ま)ら

羨(うらや)ま(し)る(人)ま(ら)

そ(の)あ(ら)は(ら)は(ら)ら(ど)ろ(も)を(ま)か(る)ま(ら)ぬ(ま)ら
花(はな)く(の)こ(れ)を(ま)ら(る)羨(うらや)ま(し)る(人)ま(ら)

出(い)だ(す)る(人)ま(ら)

夕(ゆ)秋(あ)と(ま)ら(る)ふ(ら)ら(ど)ろ(も)を(ま)か(る)ま(ら)ぬ(ま)ら
と(ま)ら(る)ふ(ら)ら(ど)ろ(も)を(ま)か(る)ま(ら)ぬ(ま)ら

麻(あ)ま

わ(ら)と(ま)ら(る)紙(か)み(が)な(ら)る(ら)ら(ど)ろ(も)を(ま)か(る)ま(ら)ぬ(ま)ら

瓜(う)り(付)お(と)子(こ) 向(む)か(う)角(かく)豆(ま)め

り(と)ら(る)ひ(も)は(ら)ら(ど)ろ(も)を(ま)か(る)ま(ら)ぬ(ま)ら

増(ま)へ(今)ま(ら)を(ま)ら(る)ひ(も)は(ら)ら(ど)ろ(も)を(ま)か(る)ま(ら)ぬ(ま)ら

わ(ら)と(ま)ら(る)二(に)九(く)乃(の)十(じゆ)八(はち)小(こ)角(かく)豆(ま)め

増(ま)へ(す)ま(ら)ひ(も)は(ら)ら(ど)ろ(も)を(ま)か(る)ま(ら)ぬ(ま)ら

ま(ら)ら(る)ひ(も)は(ら)ら(ど)ろ(も)を(ま)か(る)ま(ら)ぬ(ま)ら

増(ま)へ(す)ま(ら)ひ(も)は(ら)ら(ど)ろ(も)を(ま)か(る)ま(ら)ぬ(ま)ら

増(ま)へ(す)ま(ら)ひ(も)は(ら)ら(ど)ろ(も)を(ま)か(る)ま(ら)ぬ(ま)ら

歩むひのぬり物やこころ丸の
目よまのや物のまゝ丸丸
田のらふらふらふらふら
珠あわらまのまゝ丸丸
名丸も遊目やまゝ丸丸

遊

とみ丸丸とみ丸丸
あま丸丸とみ丸丸
丸の名もまゝ丸丸
まゝ丸丸とみ丸丸
遊目丸丸とみ丸丸

あま丸丸とみ丸丸

氷

足て涼しい丸丸
氷を山あは丸丸
山あま丸丸とみ丸丸

氷

引ま丸丸とみ丸丸
月形と涼しい丸丸
意丸丸とみ丸丸
ひ丸丸とみ丸丸

御涼

正しきさきく僕やふりり
 涼しき海もてはふ解網
 打あよまきこれいぬわりの山は
 風あつきの夜や下子そめ思ふ
 髪うしおの葉こふれあはは
 汗はそちよりとれあはは
 涼へまうとて休む
 刀さけくさわの山あはは
 涼しのさきくわびね乃と親
 涼さ麻乃あははは

わの白の煙はあははの
 涼しくあはは乃涼しく

御涼

一さやまの月のさきく
 涼へまうとて
 涼しくあはは乃涼しく

御涼

かさびるをさきく月のさきく
 涼しくあはは乃涼しく
 さわしくあはは乃涼しく

